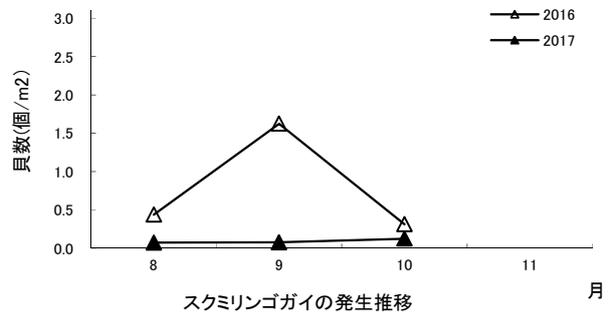
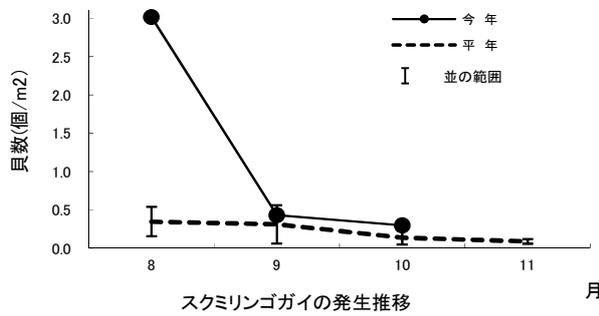


作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
10月の発生量（現況）	やや多		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	貝数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



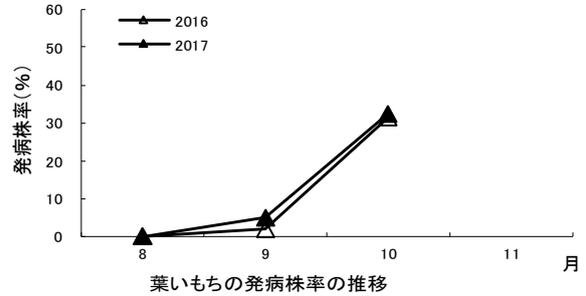
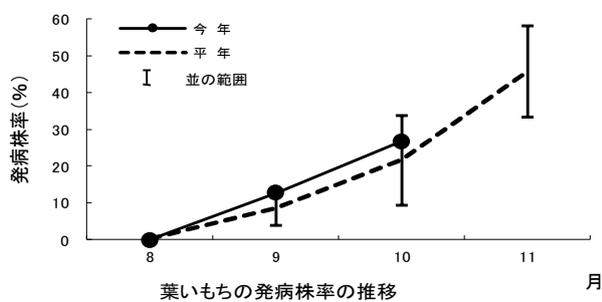
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 貝数（個/m<sup>2</sup>）：0.3（前年0.1、平年0.1、判定「やや多」）
- ・ 発生ほ場率（%）：43.8（前年50.0）

防除のポイント

- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② 葉いもち病		
10月の発生量（現況）	並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



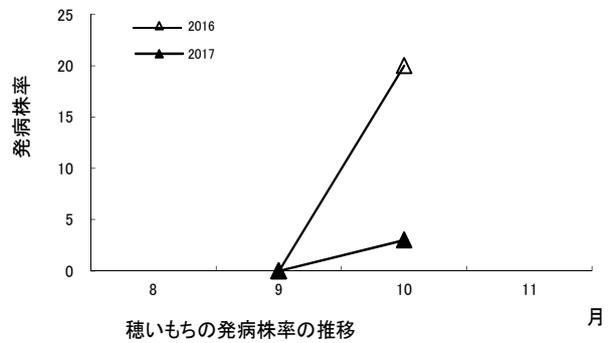
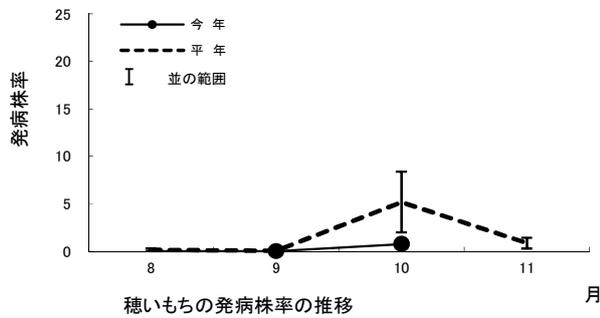
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 葉いもち発病株率 (%)：26.8（前年32.5、平年21.7、判定「並」）
- ・ 葉いもち発生ほ場率 (%)：93.8（前年75.0）

防除のポイント

- ・ 収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・ ほ場周辺のイネ科雑草は次作の感染源となるため、除草を行う。
- ・ 汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ 穂いもち病		
10月の発生量（現況）		やや少	
11月の増減傾向		↓	
増減傾向の根拠		発病株率の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。	

発生量の根拠（調査結果）



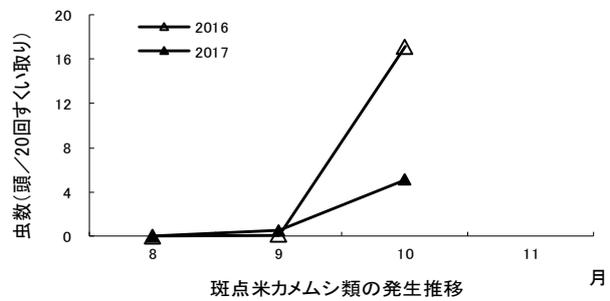
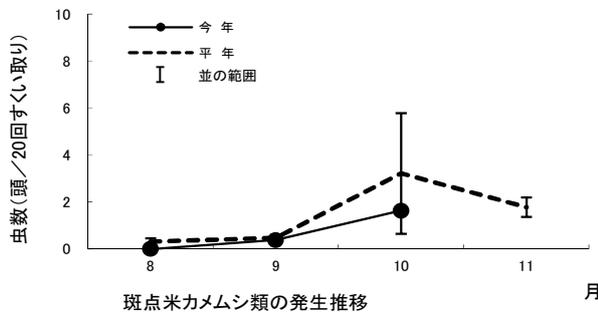
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 穂いもち発病株率 (%)：0.8（前年3.0、平年5.2、判定「やや少」）
- ・ 穂いもち発生ほ場率 (%)：18.8（前年31.3）

防除のポイント

- ・ 収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・ ほ場周辺のイネ科雑草は次作の感染源となるため、除草を行う。
- ・ 汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	④ 斑点米カメムシ類		
10月の発生量（現況）	並		
11月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	捕虫網すくい取り虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



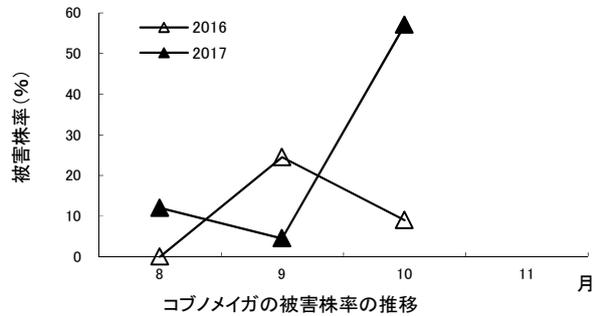
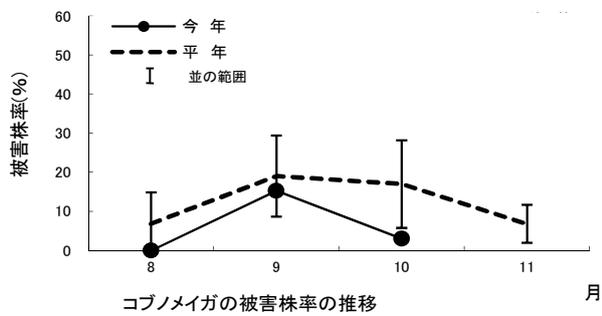
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 捕虫網20回すくい取り虫数（頭）：1.6（前年5.1、平年3.2、判定「並」）
- ・ 発生ほ場率（%）：50.0（前年62.5）
- ・ 発生種：クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカカメムシ

防除のポイント

- ・ 薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回実施を基本とする。
- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ コブノメイガ		
10月の発生量（現況）	やや少		
11月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	被害株率の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 被害株率 (%)：3.0（前年57.0、平年17.0、判定「やや少」）
- ・ 発生ほ場率 (%)：25.0（前年81.3）

防除のポイント

- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。



コブノメイガによる葉の被害